

海水温20度超え、釣りに行くなりやしないよ!!

海の感じを見てウキなど仕掛けを決めていきます。風や大サランもありますヨ～



風に負けないある程度重さのあるウキが必要ですヨ～

釣り方や状況を
考えてマキエサを
作ります

▼マルキューの『グレパワーV9徳用、アミパワーグレSP、衝撃ちスペシャル』それぞれ1袋ずつを2回に分けて作ります。集魚、遠投、拡散、視認性など兼ね備えたブレンドに佐多のクロさんもたまりません!!



船さんに10名前後の釣り人が来られてるみたいです。
「こげな風の強か時に、俺たち以外にも、釣りバカがおったんね

」と、おそらく皆様思ってたと思います。
話は変わりますが、佐多岬の渡船さんは、現在は、6隻で、このみ

野間辰美

梅雨のハシリは、クロ、チヌ、マダイなどが、産卵後の体力の回復期になり、イサキは産卵前の栄養をつけるため、いろいろな魚たちが、活発にエサを求めて荒食いを見せるのが、今のタイミングです。海水温が20度を超え出し、地上では梅雨入り間近の5月と梅雨盛期の6月、そして暑くなる7月前半ぐら

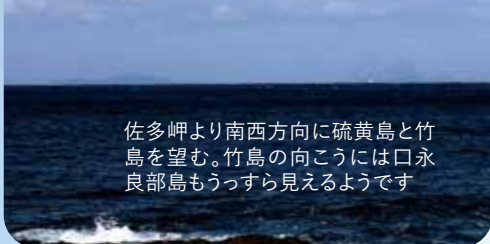
います。もちろん、クロ釣りを極めたいから口太にマトをしぼった釣りだったり、オナガグロの自己記録に執念を燃やすのもロマンがあつてカッコイイです(私もあこがれます)。ただ、私の場合は、お土産がないと「何しに行ったの?」とか、「お金がもったいない!」などなど……大変なんですヨ!

そこで今回は、前号で春イサキの特集をしましたので、今回は、口太グロや、オナガグロなどの梅雨グロを実釣を通して考えてみようと思います。

〈実釣1〉

4月下旬、黒潮おどる佐多岬に行つて来ました。当日は、大雨の後の北西の強風で、道中は強風で車があおられ、ハンドルをしっかりと抑えながらの運転で、やや肩こり状態。それでも釣り客は多く、各渡

佐多岬より南西方向に硫黄島と竹島を望む。竹島の向こうには口永良部島もうっすら見えるようです



オナガグロ (オコってる?)



てくれます。また、瀬付けもヤバいくらい上手で、少々シケでも安心して渡してくれま

に連れて来てからの釣りだと思ふので、まず多めのマキエサを釣り座正面と、左・右に数多く入れます。

オナガグロを意識

そのマキエサですが、今回は、風が強いのと、やはり佐多岬なので、オナガグロを意識したマキエサを作ります。用意したのは、オキアミ生3kgを3角とアミエビのジャンボを1.5角。これにマルキューのグレパワーV9の徳用1袋と、アミパワーグレSPを1袋、衝撃ちスペシャル1袋を2回に分けて作ります。

まずアミエビは、細かくつぶします。オキアミはなるべくつぶさずに、軽く混ぜます(オナガグロ狙いの時は、原形をまいた方が、活性が上がりやすく、浅ダナまで浮いてきます)。これに各配合エサを半袋ずつ入れて、海水をやや多めに入れて、風対策をします。

風対策とマキエアピール

風が強い時と、超遠投をする必要がない時は、気持ち多めの海水で、マキエサアピール(マキエサを入れる音とか、沈下を早めて、幅広く魚に見せる、下層に居る魚にもアピールをする狙い)と、バツカンを重ねて、暴風とウネリに飛ばされないようにします(現に2度ほど大ウネリで、バツカンが浮かされました)。

次に仕掛け作りです。仕掛けは、図を参照して下さい。基本的に浅ダナ仕掛けです。浅ダナだけと重ための仕掛けで、道糸をやや張り気味で流

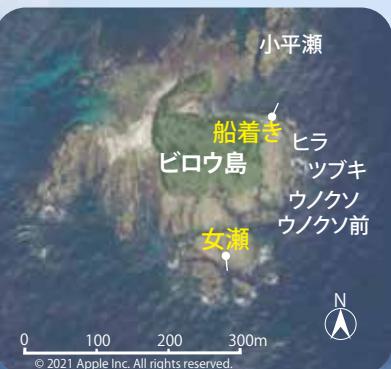
すようにします。

女瀬の水道の釣り座は、真ん中が良く、どちらの流れにも対処しやすいです。

瀬場図の通り、水道の真ん中だが、深く、全体的には、海底まで見える浅場です。クロは、確認できませんが(シケのため)、3投に1匹の割合で、オナガの子が釣れ、少し深くすると、口太グロ(約30cm)です。



女瀬の水道



佐多岬での仕掛け例



竿：グレ競技スペシャルⅣ 1.25号 5.3m
ウキ止め 半円シモリ ウキ：釣研セクトM 2B
30cm ~ 50cm
Tクッションガン玉B
30cm ~ 50cm
極小サルカン
道糸：サンラインブラックストリームマークX 1.75号
2号
ハリス：ブラックストリーム 1.75号~2号 1ヒロ半
リール：ダイワトーナメントZ 2500LBD
ハリ：競技くわせ5~6号 尾長速攻6~7号